

国語	学習に関する児童の実態・課題	教科で身に付けさせたい資質・能力	具体的な授業改善の方策
2 年	<p><b>【知識・技能】</b>                      ▲漢字に対する興味・関心は高いが、片仮名や既習漢字の定着に課題がある。                      ▲文章を書く際に、助詞や句読点、かぎの使い方に課題がある。</p> <p><b>【思考力・判断力】</b>                      話すこと・聞くこと                      ▲自分の考えを伝えたいという思いはあるが、相手に伝わるように言葉を選んで伝えたり、伝え方を工夫したりすることに課題がある。                      ▲自分の考えを伝えたいという思いが強くてでしまうため、話し手の話を最後まで聞くことができない。</p> <p>書くこと                      ○語と語や文と文の続き方に注意しながら、文章を書くことができる児童が多い。                      ○文章に対する感想を互いに伝え合い、良いところを見付けることができる。                      ▲書いた文章を読み直し、校正することが苦手な児童が多い。</p> <p>読むこと                      ○登場人物の行動を具体的に想像し、伝え合うことができる児童が多くいる。                      ○文章の中の重要な語や文を考えることが苦手な児童が多い。</p> <p><b>【主体的に取り組む態度】</b>                      ○本に親しみをもち、意欲的に読む児童が多い。                      ▲苦手な学習内容になると、取り組む前に諦めてしまう児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>片仮名や既習漢字を積極的に使ったり、助詞や句読点、かぎを正しく使ったりできる力。</li> <li>相手に伝わる文章を書くために必要なことを確かめ、文章を書く力。</li> <li>相手の伝えたいことを最後まで聞く力。</li> <li>苦手な学習内容に置いて、取り組もうとする前向きな力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を正しく使うことができるように、反復練習を行う。また、文章を書く経験を多くさせること中で、一人一人に個別に指導を行う。</li> <li>相手に伝わる文章を書くために、文章にする前の段階で、どのような内容を書くのかを整理させる。また、書いた文章を何度も読み直し、書き直すことで、伝わる文章にすることができるようにする。</li> <li>相手の話を最後まで聞くという習慣を日頃の学習から身に付けさせる。</li> <li>苦手な学習においても「まずは取り組んでみる。」という気持ちをもてるよう授業を工夫していく。</li> </ul>
2 年 1 組	<p><b>【知識・技能】</b>                      ▲文章を書く際に、助詞や句読点、かぎの使い方に課題がある。</p> <p><b>【思考力・判断力】</b>                      ○ある程度の分量の文章を短時間で書くことができる。                      ○グループで話し合ったり、自分の考えを伝えたりできる。                      ▲発表場面に慣れてない児童がいて、声が小さくなる。</p> <p><b>【主体的に取り組む態度】</b>                      ○本に親しみをもち、意欲的に読書活動を行うことができる。                      ▲苦手な学習内容になると、取り組む前に諦めてしまう児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習った漢字や片仮名を積極的に使ったり、助詞や句読点、かぎを正しく使うことのできる力を身に付ける。</li> <li>大きな声で発表できるようになる。</li> <li>どのような学習でも前向きに取り組む事のできる力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いた文章を読み返させたり、友達同士で読み合ったりする活動を通して、正しく書く力を身に付けさせる。</li> <li>新出漢字の書き方について発表させたり、相互指名させたりして様々な形での発表の機会を与える。</li> <li>児童が前向きに学習に取り組むことができるように、授業を改善したり、友達同士で教え合ったりして児童に寄り添った学習活動を行う。</li> <li>読み聞かせや読書をする時間を通して、話を聞く力や文章を読む力を身に付けさせる。</li> </ul>
2 年 2 組	<p><b>【知識・技能】</b>                      ▲既習事項（片仮名・漢字）の書き順や正しい使い方の定着が不十分。</p> <p><b>【思考力・判断力】</b>                      ○自分の考えや思いを相手に伝えたいという意欲が高い。                      ▲相手に伝わる文章を書くことができない。（言葉や伝え方）                      ▲話を最後まで聞くことができない。</p> <p><b>【主体的に取り組む態度】</b>                      ○本に親しみをもち、意欲的に読書活動を行うことができる。                      ▲苦手な学習内容になると、取り組む前に諦めてしまう児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習った漢字や片仮名を積極的に使ったり、助詞や句読点、かぎを正しく使うことのできる力を身に付ける。</li> <li>相手に伝わる文章を書くことができる力を身に付ける。</li> <li>話を最後まで聞くことができる力を身に付ける。</li> <li>どのような学習でも前向きに取り組む事のできる力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日記や感想文など、文章を書く書く経験を多く積み重ねること、片仮名や漢字、助詞、句読点、かぎ等の使い方を理解し、書く力を高めていく。</li> <li>相手に伝わる文章を書くことができるようにするために、書いた文章を何度も読み直し精査させる。また、友達に読んでもらうことで、どのような文章が相手に伝わる文章なのかを児童自身が考える機会を作っていく。</li> <li>最後まで聞く力を身に付けることができるようにするために、話の聞き方についての指導を日頃から行っていく。</li> <li>児童が前向きに学習に取り組むことができるように、授業を改善したり、友達同士で教え合ったりして児童に寄り添った学習活動を行う。</li> <li>読み聞かせや読書をする時間を通して、話を聞く力や文章を読む力を身に付けさせる。</li> </ul>

算数	学習に関する児童の実態・課題	教科で身に付けさせたい資質・能力	具体的な授業改善の方策
2年	<p>【知識・技能】 ○筆算の手順を理解し、丁寧に計算しようとする。 ▲位や数の構成などを理解していない児童がいる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○ペア交流を通して正しい判断をしたり、考え方を全体で発表したりしながら学習を進めている。 ▲文章をよく読み、条件など指示を理解し、正しい回答を導き出せない児童が多い。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○真面目に取り組む、友達同士で教え合うことができる。 ▲学習したことを基に次の展開を予想したり、学んだことを生かして新たな問題に取り組んだりする主体性に欠ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な数量や図形の意味や性質を確実に理解することや数量や図形をより豊かにする。</li> <li>数学的な処理や表現の基礎となる技能の習得。</li> <li>加法及び減法の可能性や相互関係に着目して計算の仕方を考えたり、乗法の計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすることができるようにする。</li> <li>数量やその関係に着目して、言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりする。</li> <li>身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力を養う。</li> <li>数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理の良さに気づき生活や学習に活用する態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗法九九の構成の学習では、具体物や九九表などを用いることを通して、数の感覚を豊かにする。</li> <li>長さを測定する際におよその長さの見当をつけるとともにそれを表現するのに適切な単位を選択することができるようにする。その手続きを、かさの測定においても用いることができるようにし、他の学習場面にも活用することができるようにする。</li> <li>空き箱や色板、折り紙などの具体物を使って形を組み合わせたり分解したり、動かして形を変形させてみたりするなどの操作を大切にす。</li> <li>問題を理解した後の「見通し」や集団検討時におけるペア交流を効果的に扱っていく。</li> </ul>

2年 1組	<p>【知識・技能】 ▲位や数の構成などを理解していない児童がいる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ▲文章をよく読み、条件など指示を理解し、正しい回答を導き出せない児童が多い。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ▲学習したことを基に次の展開を予想したり、学んだことを生かして新たな問題に取り組んだりする主体性に欠ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な数量や図形の意味や性質を確実に理解することや数量や図形をより豊かにする。</li> <li>加法及び減法の可能性や相互関係に着目して計算の仕方を考えたり、乗法の計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすることができるようにする。</li> <li>数量やその関係に着目して、言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗法九九の構成の学習では、具体物や九九表などを用いることを通して、数の感覚を豊かにする。</li> <li>問題の提示の仕方工夫し、本時のめあての設定を児童の思考の流れに沿って行っていく。</li> <li>問題を理解した後の「見通し」や集団検討時におけるペア交流を効果的に扱っていく。</li> </ul>
2年 2組	<p>【知識・技能】 ▲数の構成を理解していない児童がいる。</p> <p>【思考力・判断力】 ▲問題文をよく読み、立式することが苦手な児童がいる。 ▲問題の見直しをせずに、式や答えを間違えてしまう児童がいる。</p> <p>【主体的に取り組む態度】 ▲学習したことを基に次の展開を予想したり、学んだことを生かして新たな問題に取り組んだりする主体性に欠ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学的な処理や表現の基礎となる技能の習得。</li> <li>身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力を養う。</li> <li>数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理の良さに気づき生活や学習に活用する態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さを測定する際におよその長さの見当をつけるとともにそれを表現するのに適切な単位を選択することができるようにする。その手続きを、かさの測定においても用いることができるようにし、他の学習場面にも活用することができるようにする。</li> <li>空き箱や色板、折り紙などの具体物を使って形を組み合わせたり分解したり、動かして形を変形させてみたりするなどの操作を大切にす。</li> </ul>